

早雲だより

2022.7.10
第155号
歴史グループ早雲
代表 井上一夫

歴史グループ早雲 40周年の集い 報告

2022年5月22日(日)

記念講演会 「幻の伏見城を知る」

(呉竹文化センター 創造活動室)

第171回 歴史ハイキング

「幻の伏見城を巡る」

講師 若林 正博氏

若林正博様、記念講演会並びに歴史ハイキングのご講師、

長時間お疲れ様でした。誠にありがとうございました。

(写真) 記念講演会



(写真) 歴史ハイキング



40周年の集いの実施報告

代表 井上 一夫

はじめに

歴史グループ早雲40周年の集いに多数お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。記念講演会・歴史ハイキングにそれぞれ31名(参加総数は32名)の参加をいただき盛会となりました。

また、記念講演会・フィールドワークをお引き受けいただいた、伏見城研究会の若林正博様には、ご多忙の中ありがとうございました。講演では伏見に関する貴重なお話を、またフィールドワークでは武家屋敷・城郭・明治天皇家陵にまつわる珍しいお話をいただきました。私を含めて伏見ファンが増えたと思います。

長時間ありがとうございました。

さて、歴史グループ早雲は1982年の春、京都労働学校日本史講座を受講されていた山口博史さんが立ちあげられて活動を始めました。私はその時にお誘いを受けて活動に参加いたしました。その当時は日本史の知識を貪欲に求める者が集まり勉強会を中心とした活動を行っておりました。持ち回りで講師となる勉強会は論理的に話すことが苦手な私にとっても良い訓練となりました。

山口さんは残念ながら若くして亡くなりましたが、歴史グループ早雲はその後も活動を続けてまいりました。前代表の浅田雅司さんから私は縁あって代表を引

継ぐこととなり現在に至っております。

歴史グループ早雲は歴史ハイキングを中心とした活動を行っていますが、今後は座学なども取り入れた活動も行っていきたいと思っています。

この度、歴史グループ早雲が40周年の節目を迎えられたことは多くの方々のご支援の賜物と感謝しております。この集いの際に前代表の浅田さんや早雲が講演会や歴史ハイキングでお世話いただいた方々から応援メッセージをいただいております。また「京都労働学校」校長様から祝電をいただいております。誠にありがとうございました。後ほどこの紙面にてご披露させていただきます。

最後に、皆様のご健勝とご発展を祈念するとともに、今後とも早雲に対してご支援を賜りますようお願いいたします。

記念講演を拝聴して

「幻の伏見城を知る」

講演の冒頭講師より歴史グループ早雲が40年活動してきたことに対してエールを頂きました。講演の時代に合わせる40年は1582年に本能寺の変があり、1622年に伏見城廃城があるに当てはまる、その期間の変動は大きい。歴史グループ早雲も苦労がいろいろあったことと思う。



講演を拝聴し豊田秀吉をひいきして見ていた伏見城や

伏見の町の歴史観が、すっかり徳川家康の伏見城と伏見の町に変わってしまった。

幻の伏見城であるが、豊臣の城を追うと幻となるが、徳川の伏見城は実体がある。

伏見は大河ドラマに度々登場するような歴史の舞台になったところ。1912年の地形図では市街地は大坂・京都・奈良以外で伏見しかないことから伏見は特別な地域である。巨椋池を見おろす風光明媚なところに平安貴族の橋俊綱が伏見山荘を建てた(11世紀後半)。俊綱の子孫が今の天皇に続いている。伏見山荘のあった場所に秀吉は指月城を建てた(1592年)。

これ以降30年間、伏見には秀吉・家康の城が存在した。

伏見を「山の伏見」と「浜の伏見」に区分する。「山の伏見」は伏見城のあった山と大名屋敷を中心とした伏見で、秀吉や家康が政庁と

していた15年間。「浜の伏見」は伏見城が廃城されて以降、17世紀から19世紀の伏見奉行所が支配し、参勤交代の西国の大名が訪れた最大級の宿場町の伏見。きよつは「山の伏見」が主題である。

秀吉の頃は太坂城・聚楽第・肥前名護屋城などの政庁機能は分散していた。豊臣秀頼誕生により、やがて関白秀次が切腹に追い込まれ秀吉・秀次の二元政治は秀吉に一元化された(1595年)。秀吉は伏見城に滞在するが1598年に死亡した。伏見城で政権トップは3年であった。徳川家康は秀吉の遺言をタテに伏見城に居座った。大坂城には秀頼がいて、大坂では家康が秀頼に挨拶しなければいけないが、伏見城なら自分が一番である。

家康は秀吉の死後、五右衛門の筆頭格として伏見で豊臣公儀権力を執行し、継承

を画策した。1598年から1607年の8年間政治に関わった。秀吉は伏見城の3年間も五大老(家康も含む)が政治をされていて秀吉は政治をしていなかった。ここに秀吉3年・家康8年の3・8問題がある。

家康は京に近い伏見を拠点とすることで朝廷工作も行った。京都からは公家や寺院、神社関係者が伏見の家康や家臣などに陳情に訪れた。家康の家族も一緒に滞在し、11男3女の内6人が伏見で生まれた。家康は伏見城で將軍宣下をうけた(1603年)。1605年、徳川秀忠は江戸城から伏見へ来て2代將軍となった。こう見ると当初は伏見幕府といえるのではないだろうか。1607年、家康は徳川政権基盤固めを行い駿府へ引っ越した。ご講演では他にも興味深い話がありました。紙面の都合でここまでとします。

第171回

歴史ハイキング

「幻の伏見城を巡る」

午後からのフィールドワークは、呉竹文化センター〜丹波橋通を東〜桓武天皇陵〜伏見桃山城（旧キャッスルランド）駐車場入り口〜治部池〜桃山陵参道〜明治天皇陵〜参道〜御香宮と巡った。

丹波橋通は真っ直ぐ山へ延びる坂道であるが、道の両方にある平地は屋敷跡である。かつて伏見には全国の大々名の屋敷が集まっていた総城下町であった。伏見城廃城にともない大名は去って屋敷も無くなり、空き地になった。空き地に地名を付けるとき元々名前が無いかったの、ここはどここの屋敷があったなあとか大名屋敷の名を付けたようである。空き地は畑になった。水も無くやせた土地では桃が育った。そして多

くの桃が育ったことから桃山と呼ばれた。それは秀吉も家康も伏見を去った後のことで桃山と呼ばれたことは両人の預かり知らないことである。



桓武天皇陵は明治時代にこの地を指定されたようですが、陵越しに伏見桃山城（旧キャッスルランド）の天守が望めた。

昭和に天守再建の話が出た時に使える土地が今の天守辺りだけであったそうで、元は大蔵屋敷跡。治部池（堀跡）沿いに南に進み天皇陵参道に出て明治天皇陵に向かった。この参道の北側が三の丸・二

の丸・本丸の城内で急な斜面に城壁の面影があった。



明治天皇陵手前で参道が大きく曲がっている。本来直線であるべき参道は短期間の天皇陵築造に堀跡を埋めることができず曲線になった。参道の曲がり道を過ぎると明治天皇陵の広場に着く。ここは増田郭跡で城外でした。天皇陵を見上げ伏見城の本丸を想像した。天皇陵の南側は小椋池干拓地から大阪方面が見渡せる高台、しばらく眺めを楽しんだ。天皇陵から参道に戻りかつての大手門に続いた大手筋を御香宮に向かった。



御香宮へ向かう参道では伏見に明治天皇陵が作られた経緯、参道に華族が杉を植樹したことで参道は杉並木である。天皇陵参拝のブームがあった理由など沢山お話しを聞きました。



御香宮の南門は伏見城の大手門か？大手門にしては

少し小さいようである。小早川屋敷の門か？各地にある伏見城ゆかりの遺構は伏見城の物というより徳川家との結びつきを重視しものと考えられる。御香宮の門も徳川家ゆかりとする方を重視した。伏見城の血塗の天井が各地にあるが伏見城は関ヶ原合戦で焼失しており残っているとは思えない。各地に残された伏見城の遺構は徳川家との関わりが深いことを重視したものが多い。

もりだくさんの御解説をしていただき午後のフィールドワークも充実して御香宮で終了した。

若林正博様、力のこもった案内誠にありがとうございました。お疲れ様でした。参加者の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。

（文責 井上一夫）

一口感想

村田義豊

安土桃山時代の伏見の重要性がよくわかりました。今でいう首都の機能を果たしていたんですね。また、

当時の人のかんじ方と400年前後たった現在の私たちのとらえかたも違つのは当然ですね。そういう点から歴史を考えるのもおもしろいですよね。それと、こ

れは入江さんの発言で考えさせられたことなのですが会長にすべて一任する組織はダメですね。今後は合議制のような形にしていきましよう。わたしも微力ながら協力させていただきます。

茶谷ゆかり

「幻の伏見城を巡る」ハイキング、面白かったです。若い頃職場が伏見にあり、伏見は毎日通った馴染み深

い町ですが、知らないことが一杯でした。前半の先生の講

義、町歩きでの説明も分かりやすく、伏見の町が益々好きになりました。

伏見の歴史がよくわかって面白かったです。特に伏見城の跡地がどこにあるのかが初めてわかり納得しました。

大西美由紀

歴史グループ早雲に仲間入りさせていただいてまだ日も浅い私ですが、40周年の集いという節目の講演会に出席する機会を与えられて喜んでいます。

若林正博氏の講演もたいへん興味深いものがありました。

私も伏見生まれ(深草です)

伏見育ちですので、「三・八問題」は印象的でした。午後のハイキングも楽しかったです。ありがとうございました。

溝口照代

40年、歴史あるサークルだったんですね。気軽にウォーキングができて、知らない事をいっぱい学べて、新しいお友達とであえて、そんな事で参加させてもらっていたのですが、継続して、運営していただいているスタッフの方の裏方の努力には敬意を表しつつ甘えておりました。一部の人に負担がかかるのは心苦しいですが、力量的に参加する

と言う消極的協力しかできない現状の溝口です。

柴田百代

「伏見」に対して新たな見方ができて歴史を知る面白さをあらためて感じました。

わかりやすい聞きとりやすい声のトーンでの解説は本当によかったです。

伏見の事は何も知らなかったのですが、大変勉強になりました。面白なお話でした。

若林先生の伏見愛がとても良く伝わってきました。

川原傳治

伏見に住む者として、実に有意義な取組感謝です。40周年おめでとうござい

ます。第一回に参加から40年がたちました。山口氏の顔が浮かびます。よろこんでおられるでしょう。表ですが、何か協力できればと思います。

櫻井美津子

22日(日)40周年、伏見の歴史にあまり関心がなく、思い浮かぶのは家族で行ったキャスルランド。

若林先生のお話で眠くなく、少しですが頭の中に、きざむ事ができました。ありがとうございました。

藤井淑子

伏見の事は何も知らなかったのですが、大変勉強になりました。面白なお話でした。

森均

「早雲」創立40周年記念の企画で「幻の伏見城を巡る」は、午前中若林正博講師の講演で伏見城の成り立ち、推移、エピソードなど詳しい講義と、午後の現

地での案内と更なる解説があり、伏見桃山時代の秀吉のあと、家康が関ヶ原合戦の勝利後も伏見を離れられなかった理由について、また、各大名屋敷の縄張り、

杉並木、血糊の天井板の信憑性等々そして、明治天皇陵と明治神宮の造営の経緯について、講師の分かりやすい説明で理解ができ、大変勉強になりました。

なお、私の初参加は、第77回、2004、平成16年4月「京における幕末

維新の彦根藩」で、早雲にお世話になって、20年近くになりました。これからもよろしくお願いします。

応援メッセージ（順不同）

歴史グループ早雲が講演会や歴史ハイキングでお世話いただいた方々から応援メッセージをいただきました。
ご披露させていただきます。ありがとうございます。

歴史グループ早雲
前代表

心に勉強会も細々とつづけて
いました。

浅田 雅司 様

講師としてお願いしていた
若手研究者も今や教授・名誉
教授として活躍され隔世の感
を思います。会員スタッフに
も次々と参加者を得て、心強
いことでした。

次の代表者をさがしている
時、ラポール学園日本史教室
でもう一人の会の創立者であ
った井上一夫さんに再会し代
表を受けついでもう一つこと
ができたことは会として幸せの
ことでした。

40周年おめでとうございます。
創立当時は参加者も若く、
「古道を歩く」をテーマに
20キロ近く歩いていたこ
とを思い出します。創立者
の山口さんの努力と活躍で
会も大きく成長し続けてい
ましたが、山口さんが50
代で病魔に倒れ亡くなられ
たとはショックであり残念
なことでした。

「コロナ禍」ごんな時代になる
か心配の中、大変なことと思
いますが、益々の「早雲」の
発展を願っています。

残された会員スタッフは
なんとか山口さんの意志を
受けつぎなんとかつづけよ
うと努力し、ハイキング中

.....

京都橘大学教授

尾下 成敏 様

活動開始40周年おめで
とございます。代表の井
上さんからお葉書をいただ
き、貴グループの集まりで
何度か講演させていただ
いたことを思い出しました。

あのような機会を与えて
いただいた事で、人前で話す
技術を身に付けることがで
きたのだと思います。貴グ
ループのますますのご発展
をお祈り申し上げます。

.....

京都大学名誉教授

西山 良平 様

歴史グループ早雲が活動
開始40周年を迎えるこの
ことで、まずお祝い申し上げ
ます。何か応援メッセー
ジとのこと、どうしても山
口さんの顔が浮かぶ。10
年以上も前の文章であるが、
当時の感慨が詰まっている
ので、以下の文章でお許し

いただきました。思います。

「三人の友人」(『国史研究
室通信』三六、二〇〇八年
春)

私事にわたって恐縮であ
るが、今から2年半ほど前
に、相次いで、三人の友人
を亡くした。三人は三人と
もに50歳そこそこの年齢
で旅立たれた。その折に感
じたことを記してみたい。

(中略)。

二人目は、歴史グループ
早雲を長く仕切られた山口
さんである。早雲は京都の
研究者仲間ではよく知られ
ているが、戸田芳実先生や
佐藤宗諱先生が指導され、
現在も続いている歴史サー
クルである。山口さんは文
字通り、早雲を切り盛りさ
れており、私も何度か呼ん
でいただいたことがあった。

あるとき、ある方の消息を
聞きたいと思って電話をし
たところ、手術直後で休養
中であることがわかった。

職場復帰も果たされたが、
なかなか全快とはならな
かったようである。そのうち、
山口さんから依頼があって、
早雲におじゃましたところ、
質疑応答ではお元気そうに
見えたのであるが、帰りの
車中で病状のことを話され
た。少し無理をして来てい
ただいたのである。しばらく
くして、山口さんから文集
が届いた。連絡先の携帯に
メールで急いでお礼を伝え
たが、返事はいただけな
かった。山口さんの死を知
たのは、年末に届いた喪中
の挨拶である。急いでご遺
族にお悔やみを申し上げた。
ご遺族のお話では、私の
メールをベッドの上で読ん
でおられたとのことであ
った。

(中略)年齢から考えて、
ご本人の無念さは測りしれ
ないし、ご遺族の悲しみも
ひとしおであったと思う。

あらためて、ご冥福をお祈
りする次第である。

.....
富山大学人文学部教授
鈴木景二様

30年近く前に皆様と東

海道や中山道を歩いた時の
うよをなつかしく思い出して
ます。早雲が今後も長く続
くことを祈念致しております。

お元氣だった山口さんの
お姿が目につかびます。

小林保夫様

40周年お目出度うござ
います。今は亡き山口さん
と歴史ハイキングで安土城
などへ一緒にしたことがつ
いこの前ように思い出され
ます。当方、ラポール学園
で月一回江戸の古文書を開
講しております。第四月曜
日は「京都の町触」(現在延
宝期)を読んでいます。興
味のある向きは是非御参加
下さい。

50周年目指してなら一
層会の活動を頑張ってください。
会員の皆様の今後のご健康ご
多幸を心よりお祈り申し上げ
ます。

.....

京都女子大学名誉教授

野口実様

「歴史グループ早雲」40
周年、おめでとうございます。

1986年、私が京都の博
物館に赴任した後当時、神戸
大学におられた戸田芳実先生
から、京都労働学校の日本史
講座で鎌倉時代を一緒に担当
しないかとお誘いを頂きました。
それにお応えしたことで、
受講者のお一人で、歴史グル
ープ早雲の主要メンバーであ
った山口博史さんと親しくさ
せて頂くようになりました。

その後、私は鹿児島大学の
に異動しましたが山口さんと
の交流はその間も続きました。
そして、20世紀の最後の年
に京都に戻るこの出来た私
を山口さんは歓迎して下さい、

しばしば歴史グループ早雲
の学習会にも参加させてい
ただくことがありました。

一般の方々の歴史グル
ープという、ときにお国自
慢に偏してしまって、とて
も学問とは離れすぎてしま
うようなことになるケース

が多いのですが、歴史グル
ープ早雲は「歴史」を正当
な視点から見つめる活動を
続けられており、こういう
健全な組織は他に類例が少
ないのではないかと思います。
山口さんは、学問とし
ての歴史学に敬意を払い、
謙虚すぎるほどの姿勢で、
御自身の周辺にある歴史の
研究に取り組み、それを楽
しんでおられました。まさ
に本心に歴史を愛した方だ
ったと思います。

本心に残念なことに彼は
若くして世を去ってしまわ
れましたが、彼の愛した「歴
史グループ早雲」が、現在
も活発に活動を続けている
ことは本心に嬉しい限りで

す。山口さんの笑顔を思い
描きながら、今後の発展を
祈念申し上げる次第です。

2022年4月9日

【祝電披露】

公益社団法人

京都勤労者学園

京都労働学校

校長 杉山 正人様

(以下電文)

歴史グループ早雲様

創立40周年、誠におめで
とうございます。

貴グループの今までのご功
績に敬意を表すとともに、
今後のさらなるご繁栄を心
よりお祈り致します。

【編集後記】

歴史グループ早雲活動開
始から40周年の集いを無
事終えることができました。
皆様のご協力ご声援の賜物
と感謝しております。

◆◆◆

若林正博様のご講演とフ
ールドワークは森さんの
一口感想のとおりです。

◆◆◆

諸先生と前代表の応援メ
ッセージ並びに京都労働学
校校長様から祝電をいただ
けたことは幸甚に存じます。
これも早雲の活動を地道に
続けてこられた先人の大い
なる財産と思います。

◆◆◆

アンケートにご協力あり
がとうございました。集計
は紙面の都合で掲載できま
せんでしたが、今後の活動
の参考にさせていただきま
す。

(文責 井上一夫)